



「見たり、聞いたり、探ったり」No.280

通算 No.431

青木行雄

関西の名湯（日本三名湯）

「有馬温泉」の旅

ある有名月刊誌に高齢になっても、

- ①人に会うこと
- ②旅をすること
- ③本を読むこと

この3点は特に大事な行動であると認識している。又ある人から、いまはやりの機械に「ATM」があるが、

A - 明るく

T - 楽しく

M - 前向きに

良い合言葉である。

コロナ禍になってから3年あまり、ようやく下火になりつつある中、久方振りに、ある会合でこの「有馬温泉」にやって来た。一時コロナ前の繁栄ぶりはなかったが、まあまあのようなのだ。

こんなわけで旅に出たので、有馬の湯の魅力について記して見る。

日本の三古湯であり、日本三名泉と言われている。

地元のパンフによると、日本三古湯として、道後・白浜とともに古来より愛されて来た有馬温泉。日本書紀に記されていることから、1,300年前から人々を癒してきたという。湧き出るお湯は約600万年前の海洋プレートに含まれたわずかな海水。地下深くのマントルに温められ、地表に届けられる。金泉はその鉄分と塩分の多さから、無色透明で湧き出た後、空気に触れて赤褐色へと変化する。太古のロマン漂う湯けむりの中、有馬の名湯を存分にご堪能下さいと記されていた。たしかに黄金色で体に変効きそうで満



神戸電鉄・有馬温泉駅終点。新神戸駅から2回乗りかえて有馬へ。ローカルは楽しい。



有馬駅前より。各ホテルのバスがむかえに来る。ホテルは近い所が多いが坂道で駅からはほとんどが昇り坂であった。



駅前の通りで平日はまだ人かげは少ない。土曜日は大変混むようであった。



向陽閣の受付ロビー。簡素化された受付。高級感があった。



向陽閣のロビー。到着時、芸者よりお茶のサービスがあった。

足の温泉であった。

効能について記してみると、

有馬のお湯は療養泉として指定される9つの成分のうち単純性温泉、二酸化炭素泉、炭酸水素塩泉、塩化物泉、硫黄塩泉、含鉄泉、放射能泉の7つの成分が含まれる世界的にも珍しい温泉という。特に金泉には海水の1.5倍の塩分が含まれ、保温、保湿効果が高く、筋肉痛、間接痛など改善効果で日本一の温泉と言われ、又子宝の湯としても有名とされているようだ。たしかにこの黄金の湯は大変入りごちちが良かった。

又、昔、偉人たちの癒しの湯として人気があった。

古くは飛鳥時代、舒明天皇、孝徳天皇の滞在から、小野小町、清少納言、足利義満、黒田官兵衛、石田三成、福沢諭吉、谷崎潤一郎などたくさんの有名人の心と身体をいやしてきたという。中でも豊臣秀吉は、大火や地震に見舞われた有馬の復興・繁栄も助けながら、たびたび湯治に訪れ、別荘「湯山御殿」を造るなど、有馬温泉をこよなく愛したといわれる。

では「有馬温泉の歴史」についてももう少し探求してみた。

神代の時代に発見された

有馬の三羽鳥と大己貴命・少彦名命の伝説

三羽の傷ついた鳥が水たまりで水浴びをしていたところ、傷が癒えていくのを、大己貴命、少彦名命の二神が気づき、水たまりが温泉であったことを発見されたと云われており、ここから有馬温泉は始まったと云われた。

それから飛鳥時代に天皇様の行幸があって、第34代舒明天皇・第36代孝徳天皇、奈良時代に書かれた日本書紀に記載されていた天皇様の行幸、有間の皇子が誕生したと伝えられる。

奈良時代。

僧・行基の有馬温泉 再興。



ホテルの窓からの風景。緑の多い点在するホテルや温泉に関係する建物か。竹林が目立つ。時期には竹の子が多いのか。

天皇行幸により一時有名になり繁栄したがその後、衰退していき、そののち、有馬を再興させたのが奈良時代の高僧、行基であった。

平安時代に入り、歌人もたびたび訪れた。

京の都より、華やかな文化を彩る都人が有馬へとやってきた。歌人もおり、清少納言は枕草子に「出湯は、ななくりの湯、有馬の湯、那須の湯」と書いているが、ななくりの湯とはどこの湯、榊原温泉のようである。

平安時代の後半、有馬温泉はひどい山崩れなどで温泉街は破滅的な打撃を受け、荒廃する。

お告げを受けた僧・「仁西」は有馬の地へやって来て、再び有馬温泉を復活させたとある。

鎌倉・室町時代には温泉保養地として栄える有馬の地、「仁西」によって再興した有馬温泉は、風流な温泉保養地として栄えたという。

そして安土桃山時代に入り、1576年(天正4)に起こった大火災により甚大な被害を受けた有馬温泉だったが、「秀吉公」が復興を促す資金の提供や温泉寺の再建に貢献した。

そして1590年(天正18)千利休を招き大茶会を催した。

1594年(文禄3)65軒の家屋を取り壊し補償金を支払う。それから1596年(文禄5)、文禄の大地震に見舞われる。翌年から改修工事に着手、その翌年より「ねね」が再建に貢献した。秀吉の御殿の周辺から新しい温泉が噴出。秀吉公は「湯山御殿」の建設を命じたが、完成を見ることなく病に倒れたようである。

それから江戸時代に入り、有馬千軒の繁栄と云われた時代へ、幕府の直轄領となった有馬の地、天下の名湯として評価得て大変な繁栄を誇ったようである。

明治時代に入り、港町神戸のハイカラ文化が、神戸に降り立った外国人の夏の避暑地、保養地として大変な人気となった明治期。

そして大正時代には有馬の近代化が進み、1915年(大正4)、有馬～三田間に有馬鉄道が開業した。

昭和激動の時代へ

1928年(昭和3)神戸～有馬電気鉄道の神戸湊川～有馬温泉間が開業、裏六甲ドライブウェイも開通するなどアクセスが便利になっていった。

1938年(昭和13)阪神大水害に見舞われる。又戦争下、線路レールの資材供出により、有馬鉄道が廃線となった。レールまでも供出されたのである。

そして思い出すが1995年(平成6)阪神淡路大震災が発生、有馬温泉も大被災にあったのである。しかし市民の努力で復興をなしとげた。

そして2019年(令和元)、コロナ禍で大被害を受け、まったく人かげはなかったがようやく、目鼻が見えて来た。

これが有馬温泉の歴史を略式でまとめて見た。

有馬温泉には宿泊施設、ホテル、旅館合わせて40軒ぐらいあるようだが、ほとんどがビル建築で少々温泉地という昔風のおもかげにはちょっと遠い。しかし高低差のある町で今ふうの温泉地として繁盛期には大変な賑わいだったのでと想像出来る。

文面にも秀吉太閤様の力を借りた時代もあるように一番の大通りは太閤通りと名もつけられ、太閤の湯殿館まで続いている。

有馬温泉は、神戸の市街地からすぐのところでありながら豊かな自然に恵まれた関西の奥座敷として、コロナ禍の前までは多くの客が来てにぎわったであろう様子は見られた。

この温泉では古くから「太閤さんの湯殿がある」と言い伝えがあるが、1995年(平成7)1月の大震災で壊れた極楽寺庫裏下から、秀吉が造らせた「湯山御殿」の一部と見られる湯ぶねや庭園の遺構、瓦や茶器などが400年の時を経て発見されている。

この「太閤の湯殿館」には、発掘された湯ぶねの遺構や出土品とともに、太閤さんがこよなく愛した有馬温泉の歴史、文化を紹介している。この温泉にこられたら一度は見学される事をおすすめしたい。

私の宿泊したホテルは兵衛「向陽閣」という一流旅館であった。

パンフの見出しの1部を記して見る。

心に添い居る、悠久の和。

太閤秀吉に愛された、有馬の地で

700年以上の歴史を、刻み続ける兵衛向陽閣、
古来より受け継がれてきた、

そっと 寄り添うようなおもてなしの心
湯に 食に、陽だまりのような笑顔を添えて
みなさまのお越しを、お待ちしております。

神代の頃から続く有馬の湯

その存在は飛鳥時代から知られ、以来
有馬の湯は高僧をはじめ將軍など

多くの人々に愛されました

中でも当湯は豊臣秀吉に「兵衛」と命名

保護されてきたという由緒があります。

太古のロマン漂う、有馬の名湯「金泉」

一の湯、二の湯、三の湯

とあり、大変すばらしく、食事も大変良かったです。

当館パンフより

兵衛「向陽閣」



一の湯、二の湯、三の湯とあり、各湯には、透明な湯と露天風呂の金湯があった。



室内は透明湯で広々した湯であった。



露天風呂の金湯である。各湯に全部この金湯があって、有馬温泉の特長かも知れない。全く底は見えない。